

本年度の自主伝道研修会に参加させて頂きました。「宗門人としての私の課題」というテーマでの発表のため、自分自身での課題とは何か、を意識する時間が持てたことが大変貴重でした。

今回の発表者は六人と、例年に比べ人数が多かったとお聞きしていましたが、それ故に各発表者の方々がそれぞれに様々な課題を持っていることが伺え、非常に実りのある時間となったと思います。歩んだ背景の違いから、自分の課題に重なるものもあり、また違った視点からの意見も見られ、刺激を受ける機会となりました。

講師の藤井慈等師が講義の中でも触れられましたが、学生時に少し触れていた「真宗大谷派宗憲」に今一度触れることになったことも新鮮でした。学生の当時はそれほど深く読み込むことがなかった文章ながら、法務に携わり少し時間の経った今こそ、改めて見直すべきことが多く見えてくるようにも思います。特に「僧侶」と「門徒」が文言として別に表記されていることについては言及されるまで気づいておらず、またその分け方によって自らの一僧侶としての自覚を促されているようにも感じられました。

今回を機縁としてもう一度あり方を自らに問い直してみる必要があると感じております。宗憲に限らず、どうしても「～でなければならない」という言い回しに対して何か抵抗を感じてしまうのですが、その言葉の中に含まれた「そうあってほしい」という願いを認識すると、少し今までに比べて理解できる様にも感じました。

夜の懇親会の時間では座談の時間とはまた違った形での議論がなされていきました。堅い場でないからこそ表に出ることもあり、共に時間を過ごすことで見えてくるものがあると実感させられました。自分のことに限らず、様々なことを深く考える密度の濃い三日間となったと思います。支援頂いた皆様に本当に感謝致します。ありがとうございました。